

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより



< 7 月 号 >

令和3年6月30日

TEL 03-3977-2711

校長 繁田 幸江

第125号

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>

「本を大切に作る心と読書の習慣を」

副校長 川村 豊

梅雨明けが待たれる季節となりました。保護者・地域の皆様におかれましては本校の教育活動に対するご理解とご協力に感謝申し上げます。夏休みを目の前にして、教室では1学期の学習のまとめに入っています。子どもたちの気持ちは、7月といえはもうすぐ夏休みだと思いますが、ここは四季のある日本に生まれてきたのですから、伝統を後世に伝えるためにも昔からの習わし等も考えたいものです。

7月のご先祖を家にお迎えして供養をする盂蘭盆会（うらぼんえ）の行われる月でもあり、「親の墓参りに行く月」の意味の「親月（しんげつ・おやづき）」もあります。最近では行っている家庭も少なくなってきましたが、焙烙（ほうろく）の上でおがらを炊いて迎え火・送り火をすると夏の到来を感じます。

また、7月は文月とも呼ばれています。語源には色々な説がありますが、その中の一つに、稲の穂が実る頃という意味の「穂含月（ほふみづき）」が転じて「文月」になったという説があります。稲作が盛んな日本ならではの説です。

さらには、むかし七夕に書物を干す行事があって書物（文）をひらく（披く）という意味から、「文披月（ふみひろげづき）」と呼ばれるようになり、それが「文月」になったという説もあるようです。今のようにパソコンやタブレットなどの記録媒体がなかった昔は、書物を大切にしていたということがよく分かります。

新型コロナウイルス感染防止のためほとんど家で過ごすことが多いと思います。こんな時こそ、子どもたちには読書に親しんで欲しいと考えています。テレビ等のメディアに比べて、本は思考力や想像力を育成するのに有効なことは以前からいわれています。

読むという行為は自分から進んで行っていかなければなりません。読んでいる文章をもとに様々な思考をし、想像します。このことが論理的思考力を養う基礎となっていきます。また、本を読むとたくさんの言葉が出てきます。知っている言葉はもちろん知らない言葉も出てくるため、たくさんの言葉が身に付きます。良い文章にたくさん触れることで、文章力も磨かれると考えられます。

学校図書館には多くの本があります。夏休み中は長い読み物などに触れさせる良い機会です。ご家庭におかれましても、読書について話題にあげていただければと思います。夏休み用の本の貸し出しは、7月8日（木）～19日（月）です。活用してください。